

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人東京海洋大学

1 全体評価

東京海洋大学は、「海を知り、海を守り、海を利用する」の行動指針の下、教育研究の中心拠点となり、海洋立国として発展するための一翼を担うことを使命としており、海洋に関して国際的に卓越した教育研究拠点を目指すとともに、研究者を含む高度専門職業人養成を核として、海洋に関する総合的な教育研究を行うことを目指している。第3期中期目標期間においては、教育では、豊かな人間性、幅広い教養、国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養を有し、海洋に対する高度な知識と実践する能力を有する人材を養成するとともに、研究では、海洋科学技術に関わる環境・資源・エネルギーを中心とする領域と周辺領域を含めた学際的な研究を推進することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、国際通用性を高めるため、海洋科学部において4年次の進級要件にTOEICスコア600点を設定し、英語学習スペースの整備やe-learningプログラムの導入による英語学習の強化を図っているほか、「産学・地域連携推進機構東向島オフィス」を開設し、同オフィスを中心として地方の水産業関係者と東京の飲食業関係者を結ぶネットワークを構築するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 国際競争力の強化に向けて、学生交流協定を締結している上海海洋大学（中国）と大学院修士課程でのダブル・ディグリープログラムを、フリンダース大学（オーストラリア）と大学院博士課程でのダブル・ディグリープログラムをそれぞれ締結している。また、平成28年度より、海洋科学部において4年次への進級要件としてTOEICスコア600点を適用し、e-learningプログラムや英語学習スペースの整備等を行った結果、3年次生の平均スコアが650点となり、3年次生の97.5%が進級要件を満たす高い達成率となっている。（ユニット「国際競争力強化のための海洋産業人材育成組織の構築」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 学内施設の有効活用

大学が保有している施設の有効活用を図るとともに、社会に対しての大学の知名度向上を図るため、ウェブサイトにてロケーション撮影についての案内を掲載するなどの取組を行った結果、年間9件の貸出実績があり、さらに貸付料として、約150万円の収入を得ている。

○ 科研費獲得額の増加

外部資金獲得の高い実績を有する教員等によって組織される専門チームによる申請書等の事前添削や研究費の支援といった取組の結果、科研費の獲得額は約3億3,176万円（対前年度比約14.2%増）となっている。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（4）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 外国語による危険物取扱い講習の実施

従来日本語でのみ実施していた毒劇物の取扱いに関する講習会を、平成28年度より英語・中国語による同時通訳を導入して実施しており、外国人学生に対する有害薬品等の取扱いの更なる周知を図っている。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 学生の英語力強化に向けた教育の実施

国際通用性のある人材を育成するために、海洋科学部において平成28年度よりTOEICスコア600点を4年次の進級要件として適用し、正課外の模試練習会やゲスト講師を招いた特訓クラスの開講、英語学習スペースの整備やe-learningプログラムの導入等に取り組んだ結果、平成28年度において進級要件である600点を達成した学生は、3年次生283名中276名（達成率97.5%）となっている。

○ 水産資源の地産都消に向けた支援

海産物の産地と消費地を結ぶ場として、「産学・地域連携推進機構東向島オフィス」を開設し、大学及び地域企業との共同研究を実施するとともに、同オフィスを中心として気仙沼信用金庫と東京東信用金庫が連携し、地方の水産業関係者と東京の飲食業関係者を結ぶネットワークを構築することで、水産資源の地産都消に向けた支援を実施している。